

65歳から脳を守ろう理事長コラム

第19回 令和7年（2025年）11月

「くすのきは不思議な力を持っている？」

今月は、65歳から脳を守ろうという主題から少し離れ「くすのき」のお話をしたいと思います。

当院がある吹田市は、北大阪にある人口約38万人の都市で、シンボルの木が「くすのき」です。

当院の制服には「くすのき」をあしらったシンボルマークが刺繡されており、私達は普段からその制服を身にまとめて診療しています。

くすのき



当院シンボルマーク



「くすのき」は神社に多く植えられ、御神木とあがめられているものも多いです。人気歌手、俳優の福山雅治さんの歌「クスノキ」にも平和への強い想いが込められています。私は令和6年4月に当院の理事長に就任しましたが、当院の制服に刺繡された「くすのき」をみて、ちょうどその時読んでいた東野圭吾さんの「クスノキの番人」という小説の内容と重なり、人、病院では患者さんの想いを汲み取るということなのかなと思っていました。



東野圭吾さんは私と同じ年齢で同じ大阪出身の人気作家です。小説の中では、神社にある大きな「くすのき」について語られています。小説の中では、神社にある大きな「くすのき」の木の中の空洞に入って念じたことが後日、血縁のある人が「くすのき」の中に入って念ずると聞くことができるという面白い想定でした。神社でお参りする際には願い事をするわけですが、当院では「くすのき」のシンボルのもと、患者さんの望まれていることをうまく汲み取り、患者さんに寄り添う医療ができれば、良い病院になると思っています。



「クスノキの番人」はアニメーション映画化されるようですが、続編の「クスノキの女神」でも「くすのき」は多くの念を引き継がれ大活躍しています。「くすのき」には平和、人類の繁栄、病気の平癒等多くの願い事が込められ、人々が健康で力強く生きていくのに励ましとなる力があるのではないかと思ひ、日々「くすのき」のシンボルに守られながら診療しているような気がしています。

次回は、本題の65歳から脳を守ろうに戻り、高齢者にも多いてんかんについて解説しましょう。

